

平成27年度 第3回
地方独立行政法人西都児湯医療センター評価委員会

平成27年7月10日（金）午後7時から
西都市役所議会委員会室

1 開会

2 委員長あいさつ

3 議事

（1）地方独立行政法人西都児湯医療センター中期計画（案）について

4 その他

5 閉会

評価委員会における中期計画案の指標の説明（7 / 10）

1. 手術件数、血管内治療件数、t-PA 件数、内視鏡検査件数について

内科常勤医師数増加が平成28年度1名、平成29年度1名の場合、消化器疾患及び呼吸器疾患の受入れ体制が現在よりも整うため、紹介を含めた患者数の増加が見込まれる。呼吸器疾患を担当する医師が増員となるため、気管支鏡による検査が増加する予定。年間約20件ずつ増加し、平成30年度の目標値を150件とする。

脳神経外科医師は、1名体制であるため、手術件数、血管内治療件数は微増、t-PAについては、2013年より適用患者が拡大されており、20人を目標値とする。

指標	平成26年度 実績	平成28年度 目標	平成29年度 目標	平成30年度 目標
手術件数（件）	95	97	99	100
血管内治療件数（件）	20	22	23	25
t-PA 件数（件）	11	15	18	20
内視鏡検査件数（件）	98	110	130	150

2. 救急車搬入件数の増加理由について

医師数増加が、平成28年度1名、平成29年度1名の場合、夜間急病センターの定期的な当直回数が増加するため、内科系の救急搬入件数が増加する。また、午前8時から午後5時までの時間帯に年間100人程度の救急車による搬入患者が西都市内にいると予測される。医師が増えた場合、夜間の救急患者の対応を含め200人近く対応する考えである。

指標	平成26年度 実績	平成28年度 目標	平成29年度 目標	平成30年度 目標
救急車搬入件数（件）	722	800	900	900

3. 医療連携の中の紹介率、逆紹介率について

平成26年度の初診患者のうち、紹介患者と救急搬入患者の割合から紹介率29%であった。今後、医師数の増加と地域医療連携室の設置により、救急搬入を含む受入れ患者が増加する。特に紹介患者数や救急患者数がさらに増加すると逆紹介率も比例して増加する。

医師数が1名ずつ増加する場合に、紹介率が毎年1%ずつ増加し、平成29年度は31%になると予想されるため、平成30年度の目標値を30%以上とする。

指標	平成26年度 実績	平成28年度 目標	平成29年度 目標	平成30年度 目標
紹介率（%）	29	30%	30%	30%以上
逆紹介率（%）	30	30%	30%	30%以上

◆紹介率：（文書による紹介患者数＋救急用自動車による搬入患者数）÷初診患者数

◆逆紹介率：逆紹介患者数÷初診患者数

4. 医療職の確保の中の医師数、看護師数について

医師については、現在脳血管疾患と、内科疾患患者の対応をおこなっている。救急搬入の資料から心疾患に対応する循環器内科と総合的に内科診療が出来る医師の確保が必要であることが分かった。

それにより3年間で200人の救急搬入患者を受け入れることが可能になると考える。

また、入院患者や救急搬入患者数の増加に対応するため、看護師の確保も必要になる。

これは、7対1入院基本料の施設基準を維持する場合の条件である1日の病棟看護師の人数と、看護師1人あたりの夜勤時間数を月72時間以内に制限する必要がある、また特にこの病院では、通常1病棟当たり2名の夜勤看護師が必要であるが、当センターの病棟は2階と3階の2つに分かれているため、4名の夜勤看護師が必要になる。また、認定看護師など長期研修派遣をするための体制整備や育児休業取得者及び定年退職者などを考慮し採用を行う。

指標	平成26年度 実績	平成28年度 目標	平成29年度 目標	平成30年度 目標
常勤医師数(人)	3	4	5	5
看護師数(人)	49	50	56	56

5. 医療安全の徹底

職員全員を対象とした医療安全研修会については、通常の医療安全全般に関する研修会以外に医薬品と医療機器に関する研修会をそれぞれ年に1回ずつ実施する。

院内感染については、平成28年度中を目標に手術室を中心とした清潔エリアの環境改善に取り組む計画であり、それに向けて、論文や文献を活用した病院内研修会も計画している。

研修会の手法については、勤務に配慮して同じ内容の研修会を2度実施し、勤務等の都合で参加出来なかった職員には所属長を中心に読み合わせなどを行う。また、研修内容の理解度を確認するため、また今後の研修内容に対する要望などを目的としたアンケートを実施し、内容の充実を図る。

指標	平成26年度 実績	平成28年度 目標	平成29年度 目標	平成30年度 目標
安全管理委員会開催(回)	12	12	12	12
院内医療安全研修会(回)	※ 6	6	6	6
院内感染対策委員会開催(回)	12	12	12	12
院内感染研修会(回)	2	2	2	2
院外研修への参加(回)	8	8	8	8

6. クリニカルパスの導入の推進について

(タイトルと作成予定種類数)

平成26年度	3	DSA、CAS、慢性硬膜下血腫術
平成28年度	2	ラクナ梗塞、一過性脳虚血発作
平成29年度	2	未破裂脳動脈瘤クリッピング術、未破裂脳動脈瘤コイル塞栓術
平成30年度	3	気管支内視鏡検査、睡眠時無呼吸症候群検査、V-Pシャント術
平成30年度	1	脳卒中地域連携クリニカルパス

現在、DSA、CAS、慢性硬膜下血腫術のクリニカルパスを運用している。今後は、クリニカルパスを毎年2～3件ずつ作る予定。また、脳卒中の地域連携クリニカルパスの運用については、近隣の医療機関との連携調整を行って、運用を開始していくという事を、次回追加して提示する。

指標	平成 26 年度 実績	平成 28 年度 目標	平成 29 年度 目標	平成 30 年度 目標
クリニカルパス（種類）	3	5	7	10
※地域連携クリニカルパス （種類）	0	0	0	1

（DSA Digital Subtraction Angiography）

7. 研修制度の確立、専門医や認定看護師数について

平成 28 年度は、認定看護師受講者の選定、病院内の派遣及び受講規定などの整備を行う。

看護師資格（准看護師は該当しない）と、5年以上の実務経験が必要、認定看護師の養成には、指定された施設で、約半年間の研修受講が必要。

- ① 感染管理の認定看護師養成施設は、宮崎県を含め全国 14 か所で開催。宮崎県であれば自宅からでも通学可能。感染関連の委員会などで実務経験 5 年以上の職員が 2 名在籍している。

常勤医師がインフェクション（感染症）コントロールの認定医であり、感染管理は重要であると考え

- ② 救急看護の認定看護師養成施設は、福岡を含め 6 か所で開催されている。

外来看護師で救急外来の実務経験 5 年以上の看護師が数名いる。夜間急病センターなど今後も救急医療については継続していくために必要。

指標	平成 26 年度 実績	平成 28 年度 目標	平成 29 年度 目標	平成 30 年度 目標
専門医、認定医等資格取得数	5	6	6	7
認定看護師資格取得数（名）	0	0	1	2
その他医療職による外部研修（回）	29	30	30	30
事務職による院内勉強会回数（回）	1	2	2	3

8. 職員の接遇向上について 院内研修会の回数、参加人数について

年 1 回以上、全職員参加型の研修会を実施する。講師については外部に依頼する。

指標	平成 26 年度 実績	平成 28 年度 目標	平成 29 年度 目標	平成 30 年度 目標
院内接遇研修回数（回）	0	1	1	1
院内接遇研修参加人数（人）	0	全職員	全職員	全職員

9. 収入の確保、病床利用率、平均在院日数などについて

科別では脳外科 14 日、内科 18 日であり内科が延長傾向にある。

内科医師が増え入院数が増加した場合、平均在院日数も延長傾向になる。在宅復帰率 75%の要件も加わ

り自宅復帰を優先して退院先を選定する必要があるため家族や施設などとの調整に時間を要する。
 脳外科は、周辺医療機関や施設の受入れ体制が構築されているが、内科は、平成26年4月から再開して
 おり退院先の受入れ施設などの体制構築にしばらく時間を要する。

指標		平成 26 年度 実績	平成 28 年度 目標	平成 29 年度 目標	平成 30 年度 目標
入院	病床利用率（％）	43.6	49.5	54.9	54.9
	新規入院患者数（人）	829	930	1,030	1,030
	平均在院日数（日）	15.5	17	18 以下	18 以下
外来	1 日あたり外来患者数（人）	36.9	45	51	51

10. 役割と負担の明確化の医業収支比率などについて

指標について、経営に関する指標と診療に関する指標は別紙にて説明。

参考）医業収支比率（％）＝医業収益÷医業費用×100

平成27年年7月吉日

西都児湯医療圏の救急医療における臓器別診療について

～ 一般負傷、交通事故と転院搬送患者の調査から ～

医療法人財団西都児湯医療センター
理事長 長田直人

はじめに

西都児湯医療圏の救急医療で、西都児湯医療センター（以下当センター）が果たす役割は、一次救急患者に対応しつつ、当センターに救急搬送または紹介された脳疾患患者の診療を完結し、同様に内科疾患患者を総合的に診断し、かつ治療することである。このことは、前回の報告で明らかにした¹。

さて、当センターが対応できない大腿骨頸部骨折などの整形外科疾患とその他の疾患については、当センター以外の西都市内の医療機関が昼間に積極的に患者を受け入れ、その後必要に応じて転院搬送していることが分かった。西都市消防本部管内における平成24年から26年の3年間の救急・転院搬送データを基に、当センターがその現状を分析したので報告する。

◆方法

- 1) 平成24年度から平成26年度（各年度1月～12月）の3年間で、交通事故または一般負傷で、当センター、当センター以外の西都市の医療機関と宮崎市の医療機関に搬送された患者の病態と人数を調べた。また、骨折患者に限定して、医療機関別に事故の種別、傷病程度と人数も調べた。
- 2) 同様の3年間で、当センターと当センター以外の西都市内の医療機関が、宮崎市内の医療機関に転院を依頼した患者の疾患名、傷病程度と人数を調べた。
- 3) ドクターヘリによる交通事故、一般負傷と転院患者の搬送について、患者の疾患名、傷病程度と人数を調べた。

(注) 一般負傷は、他に分類されない不慮の事故で、転院搬送は、何らかの理由により、医療機関から医療機関へ搬送されたものをいう。急病とは、疾病によるもので、救急業務として行ったものをいう。

◆結果

(1) 交通事故、一般負傷と骨折

①交通事故について

交通事故で搬送された人数は毎年平均 99 人で、外傷、打撲、捻挫と骨折が多かった。当センターに搬送された患者は平均 32 人（全体の 32%）、このうち、中等・重症・死亡患者は平均 7 人（21%）。当センター以外の西都市・児湯郡内の医療機関に搬送された患者は平均 41 人（全体の 41%）、このうち、中等・重症・死亡患者は平均 20 人（48%）であった。平均 26 人（26%）は宮崎市内に搬送され、このうち、中等・重症・死亡患者は平均 19 人（73%）であった（表 1 参照）。

②一般負傷について

一般負傷で搬送された人数は毎年平均 167 人で、当センターに搬送された患者は平均 56 人（33%）、このうち、中等・重症・死亡の割合は平均 33%。当センター以外の西都市・児湯郡内の医療機関に搬送された患者は平均 60 人（35%）で、このうち、中等・重症・死亡の割合は 76%であった。残りの平均 51 人（30%）は宮崎市内に搬送され、このうち、中等・重症・死亡の割合は 72%であった。骨折、外傷と打撲が多く、その他は様々な疾患であった。（表 2 参照）。

③骨折患者について

各年度の交通事故と一般負傷等で発生した総骨折患者数は、平成 24 年度は 99 人、平成 25 年度は 70 人、平成 26 年度は 80 人であった。事故の種別では、3 年間を通じて、一般負傷による骨折が全体の骨折患者の 67%を占め、次に交通事故による骨折が 22%であった。骨折の部位では、大腿骨の骨幹部、転子部と頸部骨折を合計した人数が全体の 36%を占め、次に、胸腰部、上肢、脊椎と下肢の順で、それぞれ 15%前後であった。重症度では、脊椎骨折患者の 73%と大腿骨骨折患者の 57%が重症であった。

年間、すべての骨折患者の約 52%が当センター以外の西都市内の医療機関に搬送され、残りが宮崎市内に搬送されていた。3 年間で当センターに搬送された人数は 14 人であった（表 3 参照）。

(2) 転院搬送

各年度の転院搬送患者総数は、平成 24 年度が 244 人、平成 25 年度が 205 人で平成 26 年度が 238 人であった¹。このうち、西都児湯医療圏内の各病院間で患者を転院させ、お互いに受け入れた転送患者数は、平成 24 年度が 42 人、平成 25 年度が 30 人で平成 26 年度が 33 人であった¹ため、宮崎市内に転院搬送された患者は 202 人、175 人と 205 人で 3 年間の平均は 194 人であった。

当センターは平成 24 年度に 66 人、平成 25 年度に 36 人、平成 26 年度に 46 人を宮崎市に転院させた。当センター以外の西都市内の医療機関は平成 24 年度に 136 人、平成 25 年度に 139 人と平成 26 年度に 159 人を宮崎市内に転院させ、当セン

ターの3～4倍の患者数であった。

宮崎市内に転院搬送された平均194人の患者のうち、心疾患、消化器疾患と整形外科疾患で全体の65%、呼吸器疾患が10%、35%が様々な疾患であった。当センターから宮崎市内に転院した脳疾患患者は年間2～9人であった。宮崎市内に転院した患者の傷病程度は、ほとんど(96%)が中等症もしくは重症であった。このなかで、救急車が搬送先病院で待機し、引き続き短時間で宮崎市内の医療機関に転院搬送した症例が平成24年度は9人、平成25年度は5人、平成26年度は10人であった。

当センターを含めた西都市内の医療機関から宮崎市へ転院搬送された心筋梗塞患者と大腿骨骨折が平成24年度で20人と33人、平成25年度で8人と25人、平成26年度で15人と42人であった。当センターから転院搬送した心疾患患者は平成24年度にくらべて、平成25年度と平成26年度は半減した(表4参照)。

(3) ドクターヘリ搬送

ドクターヘリで宮崎大学に搬送された患者は平成24年度が17人、平成25年度が13人で平成26年度が15人であった。当センターには1人、県立宮崎病院には2人であった。このうち、交通事故と一般負傷の患者(25人)で半数を占め、重症と死亡患者が37人で、77%であった(表5参照)。

※ 資料内の数値については、小数点以下を切捨てとした。

◆ 考察

一般負傷と交通事故の患者については、当センター以外の西都市内の医療機関が当センターにくらべて、重症度の高い患者を受け入れていた。また、一般負傷で生じた大腿骨頸部周辺の骨折の頻度が骨折患者全体の30%を占め、重症度が高かったことは、後期高齢者の転倒による骨折が多いと示唆された。また、当センター以外の西都市内の医療機関が、一般負傷と交通事故で生じたすべての骨折患者の約半数を受け入れ、特に、重症患者を積極的に受け入れていることは、今後の西都市の救急医療における臓器別診療の一助と思われた。

194人の転院搬送患者のなかには、急病、交通事故または一般負傷などで西都市内の各医療機関が救急車で受け入れた患者と以前から入院していた患者も含まれていたと推測される。つまり、急病でA患者が西都市内のある医療機関に搬送された場合、急病で1人、診療の後、当該の医療機関から宮崎市に転院搬送された場合、A患者は転院搬送患者1人と算定されることがある。このため、ある疾患の実人数は直接宮崎市内と東児湯に搬送された人数と西都市内の医療機関に搬送された人数の合計で、転院搬送患者数は、救急搬送患者数から除外すべきと思われた。

PCI¹¹を施行できる施設がなく、緊急開腹術を施行できる施設も非常に少ない西都市では、一次二次救急に限定せず、まず患者を受け入れ、診察後、臓器別診療が必要かを決定することが肝要と思われる。特に、心疾患と整形外科疾患患者を、当センター以外の西都市内の医療機関が受け入れ治療後転院させていることは、西都市住民にとって、有難いことである。

平成 24 年春に導入されたドクターヘリは、平成 24 年度に 17 人、平成 25 年度に 14 人と平成 26 年度に 17 人の重症患者を救助した。今後も、広域な救急医療が空から西都市住民を守ってくれるだろう。

現在、年間、東児湯からの 300 人と合わせて 700 人余りの患者を収容している当センターは、今後、3 年間で、さらに年間 200 人の救急車搬送患者を診断・治療し、900 人の救急患者を確保する予定である。このためには、転院搬送患者を受け入れている西都市内の医療機関と連携しなければならない。

◆ 結語

主に、西都市内の医療機関が、毎年、臓器別診療を必要とする 200 人前後の救急患者に対応していることが確認できた。今後、さらに必要な臓器別診療を、西都児湯医療圏の住民が享受できるよう、当センターと西都市内の各医療機関が連携する必要がある。

参考資料

- i 西都・東児湯管轄の救急車による救急患者の搬送件数から見た、西都児湯医療センターの救急対応

¹¹ PCI…Percutaneous (経皮的 — 皮膚を通して処置する)
Coronary (冠動脈 — 心臓に酸素や栄養分を送る動脈)
Intervention (インターベンション — 細い管(カテーテル)を介して治療する)

表 1. 交通事故による搬送患者数と傷病名分類

(平成24年度 ～ 平成26年度)

(単位：人)

平成24年度				
搬送先医療機関	傷病程度	傷病名		
西都児湯医療センター	軽症	18	打撲	11
	中等症	2	外傷	4
	重症	2	捻挫	3
	合計	22	挫傷	2
			骨折	1
	中等・重症率		無記入	1
	18%			
西都市	軽症	21	捻挫	11
	中等症	18	打撲	10
	重症	5	骨折	9
	合計	44	気胸	1
			胸部痛	1
			切傷	1
	中等・重症率		後腹膜血腫	1
	52%		擦過傷	1
			無記入	9
児湯郡	軽症	1	外傷	1
宮崎市	軽症	4	骨折	6
	中等症	7	打撲	5
	重症	7	外傷	2
	合計	18	気胸	1
			クラッシュ症候群	1
	中等・重症率		捻挫	1
	78%		無記入	2
合計				85

平成25年度				
搬送先医療機関	傷病程度	傷病名		
西都児湯医療センター	軽症	26	外傷	11
	中等症	2	捻挫	10
	重症	3	打撲	6
	死亡	1	CPA	1
	合計	32	擦過傷	1
			低血糖発作	1
	中等・重症率		裂傷	1
	19%		無記入	1
西都市	軽症	22	打撲	13
	中等症	12	骨折	8
	重症	5	挫傷	6
	死亡	0	捻挫	6
	合計	39	擦過傷	1
			切創	1
	中等・重症率		無記入	4
	44%			
児湯郡	軽症	2	打撲	1
	中等症	1	脱臼	1
	合計	3	無記入	1
宮崎市	軽症	2	外傷	5
	中等症	11	挫傷	4
	重症	7	打撲	4
	死亡	1	CPA	2
	合計	21	クモ膜下出血	1
			骨折	1
	中等・重症率		出血性ショック	1
	90%		無記入	3
合計				95

平成26年度				
搬送先医療機関	傷病程度	傷病名		
西都児湯医療センター	軽症	31	外傷	13
	中等症	10	打撲	10
	重症	1	捻挫	10
	死亡	2	骨折	3
	合計	44	CPA	2
			意識消失	1
	中等・重症率		挫創	1
	29%		脱臼	1
			てんかん	1
			脳震盪	1
			裂創	1
西都市	軽症	14	打撲	14
	中等症	16	捻挫	7
	重症	3	骨折	5
	死亡	0	挫傷	1
	合計	33	脳内出血	1
			無記入	5
	中等・重症率			
	58%			
児湯郡	軽症	4	打撲	3
			外傷	1
宮崎市	軽症	16	打撲	14
	中等症	17	骨折	8
	重症	6	外傷	7
	死亡	1	挫傷	5
	合計	40	捻挫	2
			擦過傷	1
	中等・重症率		切創	1
	60%		脳挫傷	1
			無記入	1
合計				121

表 2. 一般負傷による搬送患者数と傷病名分類

(平成24年度 ~ 平成26年度)

(単位: 人)

平成24年度				
搬送先 医療機関	傷病程度	傷病名		
西都児湯 医療センター	軽症	35	外傷	13
	中等症	14	打撲	13
	重症	7	裂傷	7
	死亡	3	CPAOA	4
	合計	59	誤嚥	2
			骨折	2
			熱傷	2
			脳震盪	2
			ムカデ咬傷	2
			肝障害	1
			血気胸	1
			脊髄損傷	1
			窒息	1
			低血糖発作	1
	中等・重症率		肺炎	1
	41%		無記入	6
西都市	軽症	9	骨折	35
	中等症	25	打撲	8
	重症	25	捻挫	2
	死亡	0	腰痛症	2
	合計	59	切傷	1
			誤嚥	1
			呼吸困難	1
			挫傷	1
			蜂刺創	1
			腹部腹壁直下血腫	1
児湯郡	中等・重症率		挫滅創	1
	85%		無記入	5
宮崎市	軽症	12	骨折	24
	中等症	28	打撲	10
	重症	14	脱臼	3
	死亡	0	外傷	2
	合計	54	切創	2
			咽頭異物	1
			血気胸	1
			挫傷	1
			挫滅創	1
			刺傷	1
中等・重症率			出血性ショック	1
			前腕切断	1
	78%		熱傷	1
合計				174

平成25年度				
搬送先 医療機関	傷病程度	傷病名		
西都児湯 医療センター	軽症	33	外傷	13
	中等症	9	打撲	9
	重症	0	裂傷	4
	死亡	4	CPA	3
	合計	46	切傷	3
			骨折	2
			意識障害	1
			意識消失	1
			誤嚥	1
			挫創	1
			擦過傷	1
			低体温症	1
			てんかん	1
			脳震盪	1
			蜂刺創	1
			酩酊状態	1
	中等・重症率		めまい	1
	28%		無記入	1
西都市	軽症	11	骨折	24
	中等症	15	打撲	7
	重症	18	挫傷	3
	死亡	0	意識消失	1
	合計	44	関節痛	1
			坐骨神経痛	1
			てんかん	1
	中等・重症率		熱傷	1
	75%		無記入	5
児湯郡	軽症	1	切創	2
	中等症	2	骨折	2
	重症	2	窒息	1
	死亡	1	無記入	1
	合計	6		
宮崎市	軽症	14	骨折	19
	中等症	29	外傷	7
	重症	12	打撲	7
	死亡	0	脱臼	2
	合計	55	腰痛症	2
			犬咬傷	1
			頸椎損傷	1
			血便	1
			硬膜外出血	1
			誤嚥	1
			挫傷	1
			切創	1
			脱水症	1
			中毒	1
			熱傷	1
			捻挫	1
			蜂刺創	1
			鼻出血症	1
	中等・重症率		裂創	1
	75%		無記入	4
合計				151

平成26年度				
搬送先 医療機関	傷病程度	傷病名		
西都児湯 医療センター	軽症	41	打撲	17
	中等症	14	外傷	16
	重症	6	裂創	7
	死亡	2	骨折	2
	合計	63	挫創	2
			脳梗塞	2
			CPA	1
			意識消失	1
			気道閉塞	1
			くも膜下出血	1
			擦過傷	1
			切創	1
			損傷	1
			脱臼	1
			窒息	1
			中毒	1
			溺水	1
			てんかん	1
			パニック障害	1
中等・重症率			割創	1
	35%		無記入	3
西都市	軽症	18	骨折	29
	中等症	27	打撲	7
	重症	21	挫傷	6
	死亡	1	腰痛症	6
	合計	67	脱臼	2
			裂傷	2
			CPA	1
			咽頭異物	1
			外傷	1
			誤嚥	1
中等・重症率			呼吸不全	1
			刺傷	1
			損傷	1
73%			窒息	1
			中毒	1
			椎間板ヘルニア	1
			腰椎症	1
			無記入	4
児湯郡	軽症	2	打撲	1
	中等症	1	刺創	1
	合計	3	無記入	1
宮崎市	軽症	16	骨折	17
	中等症	24	切創	5
	重症	6	打撲	5
	死亡	0	挫創	3
	合計	46	外傷	2
			CPA	1
			関節炎	1
			頸椎損傷	1
			挫滅創	1
			出血性ショック	1
			損傷	1
			脱臼	1
			中毒	1
			椎間板ヘルニア	1
			肺炎	1
			腰椎症	1
			裂創	1
	中等・重症率		食道遺物	1
	65%		無記入	1
合計				179

表 3. 骨折の搬送人数 (平成24年度 ~ 平成26年度)

(単位 : 人)

			大腿骨	脊椎	上肢	下肢	胸腰部	その他の部位	計
平成24年度	事故種別	一般負傷	25	17	5	13	5	3	68
		交通事故	4	3	4	1	8	3	23
		運動競技	1	1	3	1			6
		労働災害							0
		加害事故							0
		その他					2		2
	傷病程度 (重症・死亡のみ)	軽症		2	2	1	2		7
		中等症	9	9	6	7	7	5	43
		重症	21	10	4	7	6	1	49
		死亡							0
	地域別	西都児湯医療センター	0	1	2	2		1	6
		センター以外(西都)	15	14	3	5	10	5	52
		宮崎市	15	6	7	8	5		41
		計	30	21	12	15	15	6	99
平成25年度	事故種別	一般負傷	28	5	6	3	3	2	47
		交通事故	2	1	4	3	4		14
		運動競技			1	1	1	1	4
		労働災害		1			1		2
		加害事故		1			2		3
		その他							0
	傷病程度	軽症			2	1	2		5
		中等症	14		5	4	6	1	30
		重症	16	8	4	2	3	2	35
		死亡							0
	地域別	西都児湯医療センター	1					1	2
		センター以外(西都)	14	8	7	2	6	1	38
		宮崎市	15		4	5	5	1	30
		合計	30	8	11	7	11	3	70
平成26年度	事故種別	一般負傷	24	9	9	2	6	2	52
		交通事故	7		2	2	7	1	19
		運動競技			3	2	2		7
		労働災害	1		1				2
		加害事故							0
		その他							0
	傷病程度	軽症	1	2	3	1	4		11
		中等症	15	3	7	2	7	1	35
		重症	16	4	5	3	3	2	33
		死亡					1		1
	地域別	西都児湯医療センター	2		1	1	1	1	6
		センター以外(西都)	17	4	7	2	8	2	40
		宮崎市	13	5	7	3	6		34
		合計	32	9	15	6	15	3	80

表 4. 疾患別転院搬送人数 (平成24年度 ~ 平成26年度)

(単位:人)

転院要請医療機関		平成24年度			平成25年度			平成26年度		
		西都児湯 医療センター	センター以外	合計	西都児湯 医療センター	センター以外	合計	西都児湯 医療センター	センター以外	合計
心疾患・ 循環器系疾患	大動脈解離	2		2	1	2	3		1	1
	狭心症		6	6		3	3		8	8
	心筋梗塞	8	12	20	2	6	8	3	12	15
	心筋症			0			0	1		1
	心不全	5	9	14	1	11	12		7	7
	大動脈閉塞症	3	3	6	1		1	1		1
	大動脈瘤	3	1	4			0	1	1	2
	不整脈	2	3	5	1	3	4	4	2	6
	重症虚血	2	2	4		1	1			0
	深部静脈血栓			0		1	1			0
		25	36	61	6	27	33	10	31	41
整形外科系	大腿骨頸部骨折	4	15	19		12	12	3	21	24
	大腿骨転子部骨折		14	14	1	12	13	2	16	18
	その他の骨折	3	7	10	1	8	9	4	9	13
	悪性腫瘍			0			0			0
	腰痛			0		1	1		1	1
	股関節脱臼			0			0		1	1
		7	36	43	2	33	35	9	48	57
消化器系疾患	虫垂炎		1	1		3	3	1	1	2
	腹膜炎	1	3	4		2	2		1	1
	消化管出血	4	7	11	2	5	7	1	9	10
	総胆管結石症	1	1	2		1	1		1	1
	腸閉塞	5	8	13	6	7	13	3	12	15
	ヘルニア		2	2			0			0
	腸管気腫		1	1			0			0
	胆嚢炎	1	3	4		3	3	3	4	7
	急性腹症	3	3	6		4	4	1	4	5
	肝障害		1	1			0		2	2
	胆管炎		1	1		1	1		3	3
	膵炎	1	1	2	1		1	1	1	2
	胃癌			0	1	1	2			0
	大腸憩室穿孔			0		1	1		2	2
	吐血			0			0	1		1
	腸穿孔			0		1	1			0
	腹腔内出血			0	1		1		1	1
	肝、膵、胆道系			0			0	1	8	9
	胃炎			0			0		1	1
	腸炎			0			0		4	4
	消化器系疾患計	16	32	48	11	29	40	12	54	66
	呼吸器系疾患	2	19	21	2	12	14	2	23	25
	腎・尿路系疾患	1	2	3	2	8	10	1	5	6
	脳疾患	3	31	34	9	12	21	2	15	17
	その他	15	19	34	14	38	52	15	11	26
傷病程度	軽 症	(2) 2	(6) 10	(8) 12	0	(7) 9	(7) 9	(1) 2	(4) 5	(5) 7
	中等症	(38) 39	(80) 95	(118) 134	(20) 24	(80) 89	(100) 113	(27) 29	(104) 117	(131) 146
	重 症	(26) 28	(50) 70	(76) 98	(16) 22	(52) 61	(68) 83	(18) 20	(51) 65	(69) 85
		(66) 69	(136) 175	(202) 244	(36) 46	(139) 159	(175) 205	(46) 51	(159) 187	(205) 238

※()内の数値は宮崎への転院搬送人数

表 5. ドクターヘリ搬送人数 (平成24年度～平成26年度)

平成24年度			
事故種別	搬送医療機関	傷病程度	傷病名
交通事故	宮崎大学医学部附属病院	重症	胸部打撲・肋骨骨折疑い
		重症	両下肢骨折・骨盤骨折
		重症	骨盤骨折
	防災ヘリにて搬送	重症	クラッシュ症候群疑い・両下肢骨折疑い
一般負傷	宮崎大学医学部附属病院	中等症	腹部刺創
		中等症	多発四肢骨折
		重症	左前腕切断
		重症	気胸・全身打撲
		重症	出血性ショック・緊張性気胸・両側血胸・肺挫傷
		重症	脳腫瘍・頭部打撲・外傷性SAH
転院搬送	宮崎大学医学部附属病院	重症	多発性外傷・頸椎骨折・脳挫傷・肺挫傷等
労働災害	宮崎大学医学部附属病院	重症	脳震盪・中心性頸髄損傷・全身打撲
水難事故	宮崎大学医学部附属病院	重症	溺水
急病	宮崎大学医学部附属病院	中等症	消化管出血
		重症	上部消化管出血・大腿骨骨折疑い・電解質異常疑い
		重症	脊髄梗塞
		重症	敗血症ショック

(単位：人)

事故種別	交通事故	4
	一般負傷	6
	転院搬送	1
	労働災害	1
	水難事故	1
	急病	4

傷病程度	中等症	3
	重症	14
	死亡	0
	合計	17

平成25年度			
事故種別	搬送医療機関	傷病程度	傷病名
交通事故	宮崎大学医学部附属病院	重症	出血性ショック
		死亡	多発外傷・来院時心肺停止
一般負傷	宮崎大学医学部附属病院	中等症	転落外傷
		重症	頭部外傷
		重症	転落外傷
転院搬送	宮崎大学医学部附属病院	重症	重症肺炎
	西都児湯医療センター	重症	脳出血
労働災害	宮崎大学医学部附属病院	中等症	外傷性クモ膜下出血
	防災ヘリ(宮医大)	重症	胸部外傷・開放性気胸・多発肋骨骨折
		無記入	無記入
運動競技	宮崎大学医学部附属病院	中等症	左鎖骨骨折
急病	宮崎大学医学部附属病院	重症	AMI
		重症	消化管出血
		中等症	吐血

(単位：人)

事故種別	交通事故	2
	一般負傷	3
	転院搬送	2
	労働災害	3
	運動競技	1
	急病	3

傷病程度	中等症	4
	重症	8
	死亡	1
	無記入	1
	合計	14

平成26年度			
事故種別	搬送医療機関	傷病程度	傷病名
交通事故	宮崎大学医学部附属病院	重症	左肋骨骨折
		重症	右鎖骨骨折・右肋骨骨折・腹腔内出血疑い
		重症	骨盤骨折
		重症	大腿骨骨折
		死亡	脳挫傷
一般負傷	宮崎大学医学部附属病院	中等症	頸椎骨折
	県立宮崎病院	中等症	左足切創
	宮崎大学医学部附属病院	重症	出血性ショック
		重症	重症頭部外傷・右気胸疑い
転院搬送	宮崎大学医学部附属病院	重症	頸髄損傷
		中等症	化膿性脊椎炎
		重症	脳梗塞・肺炎
		重症	腹部臓器損傷
	県立宮崎病院	重症	心肺停止後低酸素脳症・急性腎不全
急病	宮崎大学医学部附属病院	重症	出血性ショック・腹腔内出血
自損行為	宮崎大学医学部附属病院	重症	脳卒中
	宮崎大学医学部附属病院	重症	腹部刺創・左手関節部切創・うつ病・自殺企図

(単位：人)

事故種別	交通事故	5
	一般負傷	5
	転院搬送	5
	急病	1
	自損行為	1

傷病程度	中等症	3
	重症	13
	死亡	1
	合計	17

退院先施設一覧 (2014年度)

運営形態	施設名	件数
介護老人保健施設	並木の里	1
介護老人保健施設	菜花園	4
介護老人保健施設	なでしこ園	5
介護老人保健施設	シルバーケア新富（居宅支援）	10
グループホーム	グループホーム旭	1
グループホーム	グループホーム池内の家	1
グループホーム	グループホーム遊友	1
グループホーム	つれづれあん西都	1
グループホーム	ホーム支援ハウスひむか	1
グループホーム	グループホーム新富	2
グループホーム	グループホーム七夕	4
グループホーム	グループホーム希望の里	9
高齢者向賃貸住宅	シルバーコート新町	2
介護サービス付高齢者住宅	しゃちんぼの濱	1
住宅型有料老人ホーム	ケアポート木の瀬	1
住宅型有料老人ホーム	ミューズの朝	4
住宅型有料老人ホーム	向陵台	6
住宅型有料老人ホーム	向陵台調殿館	6
障害者支援施設	あゆみの里	2
障害者支援施設	うからの里	4
特別養護老人ホーム	鈴南の里	1
特別養護老人ホーム	とのこおり荘	2
特別養護老人ホーム	鈴山荘	3
特別養護老人ホーム	新納荘	4
特別養護老人ホーム	三納の里	6
特別養護老人ホーム	幸楽荘	9
複合型福祉施設	仁の里	2
有料老人ホーム	ウエルコート佐土原	5
有料老人ホーム	エリシオン聖陵	1
有料老人ホーム	有料老人ホーム新田	1
有料老人ホーム	有料老人ホーム川南	1
有料老人ホーム	有料老人ホームぶどうのみ	1
有料老人ホーム	有料老人ホームかぐや姫	1
有料老人ホーム	有料老人ホーム高鍋	2
有料老人ホーム	有料老人ホーム新富	2
有料老人ホーム	有料老人ホーム美老苑	2
有料老人ホーム	有料老人ホーム優	4
養護老人ホーム	清風園	1
養護老人ホーム	愛寿園	4
障害者共同生活援助介護施設	天命館	1